

## 各機関の迅速測定結果（令和5年9月1日現在）

**【最新状況】（土・日・祝日公表分は原則として翌営業日に更新、下線は更新箇所）**

### ■東京電力

詳しくは[こちら](#)（東京電力 トリチウムの迅速測定の分析結果）

#### 【海水】

##### 【発電所から3km以内】

8月31日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度は、放水口からもっとも近い地点（放水口から約200mの地点）において、10ベクレル/リットル<sup>※</sup>（検出下限値：8.6ベクレル/リットル）、その他の地点において、検出下限値未満（5.1～8.3ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

※当該海域は、海流の流れが数日おきに入れ替わることがあり、その海流の状況に応じて、数値に変動が生じるものと考えております。

なお8月24日に採取した海水で検出下限値を0.4に下げた精密分析を実施したところ、放水口から最も近い地点（放水口から200m）において、トリチウム濃度が2.6ベクレル（検出下限値：0.34ベクレル/リットル）、その他の地点においては、検出下限値未満（0.32～0.35ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

##### 【発電所から10km四方内】

8月30日に福島第一原子力発電所から10km四方内3地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度は検出下限値未満（7.6～7.7ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である30ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や20ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

### ■環境省

詳しくは[こちら](#)（環境省ホームページ）

#### 【海水】

8月25日朝に福島県沖の11測点にて採取した海水試料を分析（迅速測定）した結果、すべての測点において、海水のトリチウム濃度は検出下限値未満（7～8ベクレル/リットル未満）であり、人や環境への影響がないことを確認しました。（環境省）

＜水産庁、福島県は次ページ＞

## ■水産庁

[詳しくはこちら](#) (水産庁ホームページ)

### 【水産物】

8月31日朝にALPS処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側5kmで採取されたヒラメのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約8.5ベクレル/kg未満）であることを確認しました。（水産庁）

## ■福島県

[詳しくはこちら](#) (福島県ホームページ)

### 【海水】

8月30日採取：全9測点で検出下限値未満（3.9～4.4Bq/L未満）であり、人や環境への影響がないことを確認しました。（福島県）

### <参考>

放出前の福島県沖の海水中トリチウム濃度は0.1～1ベクレル/リットル程度

WHO飲料水ガイドライン 10,000ベクレル/リットル

○本資料は、各機関・当社が実施した海域モニタリング（迅速測定）の結果を、各機関の公表内容をもとにまとめたものです。各機関の測定結果に関するお問い合わせは、各機関にお願いいたします。

# 東京電力の迅速測定結果

## 【海水】

<9月1日公表>

### 【発電所から3km以内】

8月31日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度は、放水口からもっとも近い地点（放水口から約200mの地点）において、10ベクレル/リットル※（検出下限値：8.6ベクレル/リットル）、その他の地点において、検出下限値未満（5.1～8.3ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

※当該海域は、海流の流れが数日おきに入れ替わることがあり、その海流の状況に応じて、数値に変動が生じるものと考えております。

なお8月24日に採取した海水で検出下限値を0.4に下げた精密分析を実施したところ、放水口から最も近い地点（放水口から200m）において、トリチウム濃度が2.6ベクレル（検出下限値：0.34ベクレル/リットル）、その他の地点においては、検出下限値未満（0.32～0.35ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

### 【発電所から10km四方内】

8月30日に福島第一原子力発電所から10km四方内3地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度は検出下限値未満（7.6～7.7ベクレル/リットル未満）であり、当社の運用指標である30ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や20ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<8月31日公表>

8月30日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度は検出下限値未満（6.3～7.7ベクレル/リットル未満）であり、700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<8月30日公表>

8月29日に福島第一原子力発電所から3km以内2地点※にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度は検出下限値未満（5.9ベクレル/リットル未満）であり、700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

※8月29日は、海象の影響をふまえ、調査船の出航を中止し、陸側から試料採取できる2地点で試料採取を実施しました。

<8月29日公表>

8月28日に福島第一原子力発電所から3km以内2地点<sup>\*</sup>にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、トリチウム濃度は検出下限値未満（7.3ベクレル/リットル未満）であり、700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<sup>\*</sup>8月28日は、海象の影響をふまえ、調査船の出航を中止し、陸側から試料採取できる2地点で試料採取を実施しました。

<8月28日公表>

8月27日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点において、トリチウム濃度は検出下限値未満（6.1～6.8ベクレル/リットル未満）であり、700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<8月27日公表>

8月26日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点において、トリチウム濃度は検出下限値未満（6.1～6.8ベクレル/リットル未満）であり、700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<8月26日公表>

8月25日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点において、トリチウム濃度は検出下限値未満（5.5～7.6ベクレル/リットル未満）であり、700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

<8月25日公表>

8月24日に福島第一原子力発電所から3km以内10地点にて採取した海水のトリチウム濃度の迅速な測定を行った結果、すべての地点において、トリチウム濃度は検出下限値未満（4.6～8.1ベクレル/リットル未満）であり、700ベクレル/リットル（放出停止判断レベル）や350ベクレル/リットル（調査レベル）を下回っていることを確認しました。

## 環境省の迅速測定結果

### **【海水】**

<8月27日公表>

8月25日朝に福島県沖の11測点にて採取した海水試料を分析（迅速測定）した結果、すべての測点において、海水のトリチウム濃度は検出下限値未満（7～8ベクレル/リットル未満）であり、人や環境への影響がないことを確認しました。（環境省）

## **水産庁の迅速測定結果**

### **【水産物】**

<9月1日公表>

8月31日朝に ALPS 処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側5kmで採取されたヒラメのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約8.5ベクレル/kg未満）であることを確認しました。

<8月31日公表>

8月30日朝に ALPS 処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側約5kmで採取されたトラフグのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約8ベクレル/kg未満）であることを確認しました。

<8月29日公表>

台風10号の影響により、27日と28日にサンプルの採取が出来なかったため、29日と30日の結果報告はありません。

<8月28日公表>

8月27日朝に ALPS 処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側約5kmで採取されたヒラメのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約8.6ベクレル/kg未満）であることを確認しました。（水産庁）

<8月27日公表>

8月26日朝に ALPS 処理水放出口の北側約4kmで採取されたホウボウ及び同放出口の南側約5kmで採取されたヒラメのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（約8.8ベクレル/kg未満）であることを確認しました。（水産庁）

<8月26日公表>

8月25日朝に ALPS 処理水放出口の北側約4kmで採取されたヒラメ及び同放出口の南側約5kmで採取されたホウボウのトリチウム迅速分析の結果、いずれの検体も放出前と同様に検出下限値未満（8.1～8.2ベクレル/kg未満）であることを確認しました。（水産庁）

## 福島県の迅速測定結果

### **【海水】**

<9月1日公表>

8月30日採取：全9測点で検出下限値未満（3.9～4.4Bq/L未満）であり、人や環境への影響がないことを確認しました。（福島県）

<8月27日公表>

8月25日に福島県沖の9測点にて採水した海水のトリチウム濃度は、迅速分析を実施した結果、すべての測点で検出下限値未満（3.7～4.1ベクレル／リットル未満）であり、人や環境への影響がないことを確認しました。（福島県）

## 【参考】海水のトリチウム濃度の比較

単位：ベクレル/ $\mu$ L

※1：原子力施設の放水口から出る水を、毎日、その濃度で約2㍑飲み続けた場合、一年間で1ミリシーベルトの被ばくとなる濃度から定められた基準  
 ※2：出典『日本の環境放射能と放射線』（期間：2019/4～2022/3）  
 ※3：2023/8/23～8/31実績より